国際交流員ウィルペルトのコラム

名前を軽んじてはいけない
Ein Name ist nichts Geringes
(アイン ナーメ イスト ニヒツ ゲリンゲス)

皆さんは気がつきましたか？

コラムのタイトルの「メラニーのコラム」が「ウィルペルトのコラム」に変わりました。

タイトルの「名前を軽んじてはいけない」というのは、ゲーテの言葉です。その言葉のとおり、名前は大事なものです。今回は、ドイツ人が名前にどんなこだわりをもっているのかについて書きたいと思います。

まずは、去年の私の実体験を紹介します。

日本に来て２週間、私はホテルに滞在していました。その期間に初めて下野市の担当職員とテレビ電話をしました。私にとって新しい職場での新しい仲間です。

そのとき、その方から「(名前の) メラニーと呼んでいいですか？」と質問されました。私は、前の会社ではみんなが名字ではなく名前で呼び合っていたので珍しいとは思いませんでしたし、その質問には「仕事の関係の中で仲良くしたい」「私たちの間では、そんなに堅苦しくしなくていい」という気持ちが含まれているのだと思いました。それに、私との関係性を決めるのは、これから上司になる職員の方だと思って、「いいですよ」と返事をしました。

ドイツ人の感覚で考えていた私は、次のテレビ電話のときには相手も名前を名乗ってくれて、それからはお互いに名字ではなく名前で呼び合うのだと思っていました。ですが、その方は最後まで名前を名乗ることはありませんでした。

そこで、私の中で静かに違和感が広がり始め、「えっ？ 私だけが名前で呼ばれるの？ 私は名字で呼ぶのに？ 子ども扱いじゃない？」と頭をよぎりました。

そして、相手がどう思っているのかを考えてしまいました。「みんなは私よりも上の立場でいたいから私を名前で呼んで、自分のことは名字で呼べというのかな？　でも、それは仕事の関係の上で偉そうだし、失礼だと思わないの？」それが、私の最初の反応でした。

私は、自分の気持ちを冷静な考えで鎮めようとしました。「日本人は相手を敬う文化があるし、多分、私を下の立場に置きたいわけではない」「メラニーと呼んでいいかと聞かれて、私がいいと返事してしまったのだから我慢しないといけない」と。それでも、「こうなるのを知っていれば、最初に断れば良かった」と後悔しました。

その後も、テレビ電話で何人かの職員から名字で自己紹介されるたびに、私の中の違和感は大きくなっていきました。

とうとう私は、「こんな気持ちのまま新しい仕事を始めたくない。新しい上司や同僚と、良い気持ちで向き合いたい」と思って、メールを送ることに決めました。下野市で初めて対面する前に「名字で呼んでほしい」とお願いするメールです。自分で何もしなければ、状況は良くならないと思って、丁寧な書き方を調べてメールを書きました。

幸いなことに、職場の皆さんは私の希望を受け入れてくれたので、とても感謝しています。

日本では「外国人に対しては、初めから（名字ではなく）名前で呼ぶのが一般的」と思っている方が多いと感じています。それは、少なくともドイツ人が相手なら誤解があります。

この続きは、次回２月号のコラムでお話ししたいと思います。

ドイツ人は、お互いをどのように呼び合うのでしょうか？ 初対面の場合は？ お付き合いが長くなったら？ それは、どう変化するのか――皆さん、想像しながら待っていてくださいね。

ママパパEnglishサロン

市国際交流協会では、子ども連れの方でも気軽に参加していただける英会話サロンを毎月開催しています。大人の方のみの参加も、もちろん OK です。

国際交流員のウィルペルトさんと一緒に、遊びながら気軽に英会話を楽しんでみませんか？

■**日時**　1 月 27 日㈭　午前 10 時～ 11 時
■**場所**　薬師寺コミュニティセンター
■**定員**　５名
■**参加費**　無料（ただし、参加者は国際交流協会に入会していただきます。年会費 1,000 円）
■**申し込み・問い合わせ先**　市民協働推進課　☎(32)8887

37 ページのクロスワードの答え

む	ら	お	さ	■	し	
し	■	に	じ	い	ろ	←12月号 P40
ば	く	■	■	し	あ	
■	ら	く	れ	つ	と	←12月号 P43
あ	■	ま	い	■	■	
ま	い	の	り	て	い	←12月号 P40